

景況調査

(平成25年10月～12月期)

平成25年10月～12月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数(景気動向指数)を用いて示している。

DIは、「増加」「好転」の企業割合から「減少」「悪化」の企業割合を差引いた数値である。DIがプラスの数値であれば、「増加」の企業割合が「減少」の企業割合よりも多いことを示し、逆にDIがマイナスの数値であれば、「増加」の企業割合が「減少」の企業割合よりも少ないことになる。

平成25年10月～12月期の調査結果では、業況、売上高、資金繰りが改善したが、採算(経常利益)は悪化している。

〈業況〉

業況DIは▲3.2と前回調査に比べて7.2ポイント上昇した。業種別では、小売業が21ポイント上昇の▲36.8、製造業は15.0ポイント下降の25.0、建設業が23.5ポイント下降の18.2、サービス業が5.0ポイント上昇の▲20.0、卸売業が50ポイント上昇の50.0であった。小売業、サービス業、卸売業が上昇したが、製造業と建設業で下降した。1～3月期の見通しは、全体で▲15.3と10～12月期

の実績から12.1ポイント下っている。

〈売上高〉

売上高DIは▲3.0と前回調査に比べて2.8ポイント上昇している。業種別では、小売業が5ポイント下降の▲55.0、製造業が3.1ポイント下降の33.3、建設業が2.3ポイント上昇の27.3、サービス業が8.2ポイント上昇の11.8、卸売業が16.7ポイント上昇の66.7となった。小売業と製造業が共に下降したのに対して、建設業、サービス業、卸売業が上昇している。

〈採算(経常利益)〉

採算(経常利益)DIは▲27.3と前回調査に比べて3.8ポイント下降している。業種別には、小売業が▲60.0で10ポイント下降、製造業が0.0で前回調査と同じ、建設業が▲27.3で35.6ポイント下降、サービス業が▲23.5で13.3ポイント上昇、卸売業が16.7で16.7ポイント上昇であった。1～3月期見通しでは、全体で▲20.6と10～12月期の実績に比べて6.7ポイント上昇となっている。

〈資金繰り〉

資金繰りDIは▲34と前回調査に

比べて17.2ポイント上昇している。業種別では、小売業が12.2ポイント上昇の▲21.1、製造業が前回調査と同じの0.0、建設業が0.8ポイント下降の▲9.1、サービス業が42.1ポイント上昇の14.3、卸売業が33.4ポイント上昇の16.7となった。1～3月期見通しでは、▲9.6と10～12月期の実績に比べて6.2ポイント下降となっている。

〈その他の意見〉

・原発再稼働のための福島県の検証
・大企業の都合により一定期間後取引停止をされている中小企業が多いと思われます。便利使いをされるのはいいのですが、契約期間についての取り決めをしないとダメではないでしょうか。
・アベノミクスの経済効果に期待しつつ、オリンピック開催もあって国の財政支出が後々国民の首を締めつけないか心配な面もある。
・借金をして一時生活が豊かになっても後悔は見えている。今の日本経済の大盤振る舞いが後世にどうなるか、誰でもわかることである。無責任な人達のやることで今後の経済の見通しは暗いと言われる。やはり、質素な剛直な生き方に戻るのがいい。そのためには、少々の生活の不自由は我慢したいものである。
・昨今、中山道周辺の店舗やたまたま等々に、商工会議所や市商観がスポットを当ててくださり感謝しています。

